

## 野良着「タモンペ」の再現 —秋田市および男鹿南秋地域の下半衣の比較を通して—

丸谷 仁美\*・佐藤 里美\*

### 1 はじめに

農民が着用する仕事着を「野良着」という。農作業の際に用いられるほか、普段着をも兼ねる衣服である。野良着は「かぶりもの」「上半衣」「下半衣」「帯」「前かけ」「手おい類」「はきもの類」に分類され、構造や名称から地域的な特徴がみられる。関東を中心とした東日本では、上半衣と下半衣とが分かれる形が多く、西日本では和服を短くはしょって着用し、腰巻きをはく形が多いという〔日浅 1986 50頁～52頁〕。しかしながら、太平洋戦争中にモンペが普及したことにより、東日本と西日本の差違があまりみられなくなったとされる。その後、野良着は時代とともに変化していき、今日に至っている。

野良着の研究者であった日浅知枝子によると、秋田県の野良着は昭和40年代を境に和服形式から洋服形式に変化し、各家で手作りしていたものから既製品を購入するようになっていったという。現在では野良着を作る人も少なくなり、和服形式の野良着を持つ人も少ない〔日浅 1984 83頁〕。

そこで今回は、和服形式の下半衣に注目し、その再現を試みる。日浅によると、秋田県内は野良着、特に下半衣の種類が豊富であり、作り方や名称に地域的な特徴が見られること、当館では、2000年に日浅が収集した野良着の寄贈を受けており〔木崎・嶋田 2000 61頁～70頁〕、まとまった下半衣が収集されていることから、制作方法について比較検討が可能であることがその理由である。

なお、実際の下半衣の比較考察ならびに再現は佐藤が、本報告書の作成については丸谷が行った。

### 2. 秋田県内の下半衣について

日浅によると、秋田県内での下半衣は、男性の

場合は昭和初期前後に、女性の場合は第二次世界大戦後に変化したと言う。それまではもんぺやたちつけ、ふんどみなどと呼ばれる袴を身につけており、宮本勢助はこれを「山袴」と称した。

山袴の特徴として、

①前布・後布各2枚、計4枚の布で構成され、股下にマチが入っていること。マチは正方形が多く、三角形や長三角形のものもある。正方形と三角形をつなげることもある。

②普通の袴にある、後腰の台形の腰板がない。ただし県内では昭和初期まで腰板のついた袴があった。

③前脇あけに笹ひだがない。しかし地域によっては笹ひだがつけられるものがある。

④男女とも着用することがあるが、男性の場合前のマチ部分に排尿用の開口部がある。

こうした山袴の特徴を踏まえた上で、日浅は県内各地で着用されていた下半衣を、1)ももひき系 2)たちつけ系 3)もんぺ系 4)かるさん系とに分類した。1)ももひき系は県南や由利地域で多く着用され、ズボンのように脚の形に沿って作られる。2)たちつけ系は膝から下が細く、腰まわりがゆったりしているため重ね着が出来、全県で着用された。3)もんぺ系は腰から足先まで全体的にゆったりと作られており、古くから県内で着用されていたが、昭和18年の厚生省令によって、女性の衣服として推奨されたことから、この時期以降に着用するようになったという人もいる。

4)かるさん系は山作業や日常用として主に男性が用いたものであるが、戦中戦後は防寒着として子どもに履かせていたことが多い〔日浅 1984 84頁～90頁〕。

\*秋田県立博物館

### 3. 秋田市周辺地域の下半衣の比較

#### 1) 秋田市金足の「タモンペ」について

上記のように、下半衣は多様な形を持つことが分かる。今回はその中で、博物館の立地する秋田市金足地区で制作された「タモンペ」について再現を試みた。

今回再現のために参考としたタモンペは1976年に博物館に寄贈されたものであり、構造は図1のとおりである(写真01)。前布と後布との各2枚と、正方形の股下部分で構成されている。腰の部分がゆったりとしているが、膝下は足にぴったりとつくように作られているため、たちつけ系と確認できる。

たちつけ系は全国に見られる構造の下半衣であるが、各地でさまざまな名称がある。県内ではたつけ、たづきなどの他、野良へ出で立つ意味で「でたち」と呼ばれる。また、下体部をさす「すねこでたち」などと呼ばれたり、もんぺと呼ばれたりすることも多い。日浅の分類によると、秋田市や男鹿南秋地域では「すねこでたち」「すねこもんぺ」「タモンペ」などの名称で呼ばれている〔日浅1984 92頁〕。

今回参考としたタモンペは、前2枚、後2枚の計4枚の濃紺の木綿布と、股下のマチの布で構成されている。マチは正方形と三角形の布がつけら

れており、三角形の部分には白糸で一点鎖線が刺されていることが特徴である。補強のためか、まじないの意味があったかは不明である。

紐は別布で作られているが、後の紐は別布で継ぎ足されている。足の長さの約半分ほどまで笹ひだがついており、腰から膝のあたりまで大きく空いている(写真02 笹ひだ)。また、笹ひだの縫いあわさった部分が赤布で補強されていること、全体の長さ、足首の細さなどから、身長150cm前後の女性が着用したものと推測される。

#### 2) 他下半衣との比較

このタモンペと、同様の構造をした下半衣とを比較したい。比較の対象としたものは、館蔵の秋田市ならびに男鹿南秋のもので、計7枚である(図2～9)。その違いについては次のとおりであった。

①腰から腹の部分は、図2～9すべてが前布が後布よりも短く、前布の部分に股下のマチが来るように作られている。

②全体の長さは80cmから90cmまでで、足首の周囲は30cmほどであり、再現したタモンペは26cmと他のものよりも細い。足首の細い人物が着用していたものと思われる。

③右足左足とも各1枚ずつの布で縫い合わされているものがほとんどであるが、図3の刺し子モンペのように裏布をつけているものもある。図3



写真1 タモンペ着用



写真2 笹ひだ

図1 民キ502 タモンペ (秋田市金足浦山)

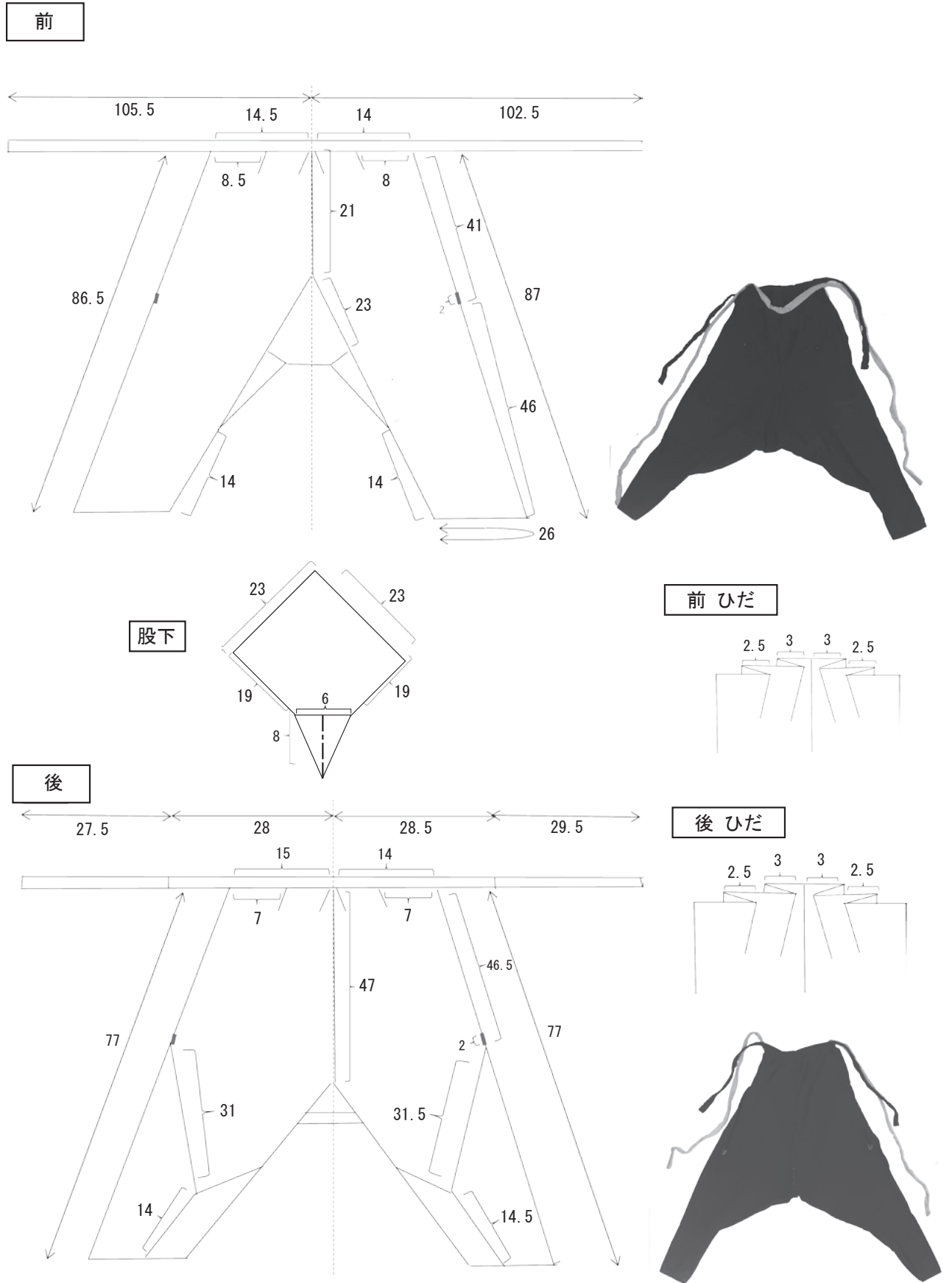


図2 民キ500 スネコモンペ (オガモンペ) (秋田市金足浦山)

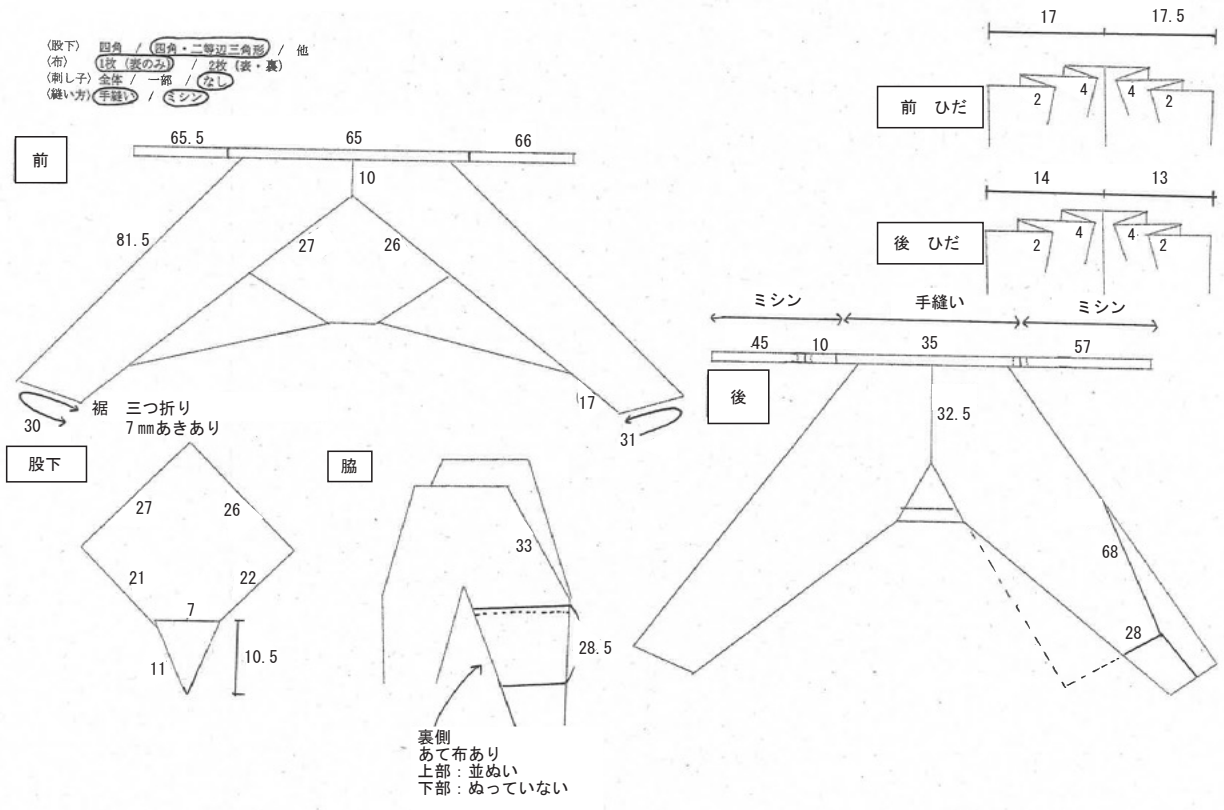


図3 民キ824 刺し子モンペ (秋田市金足鳩崎)

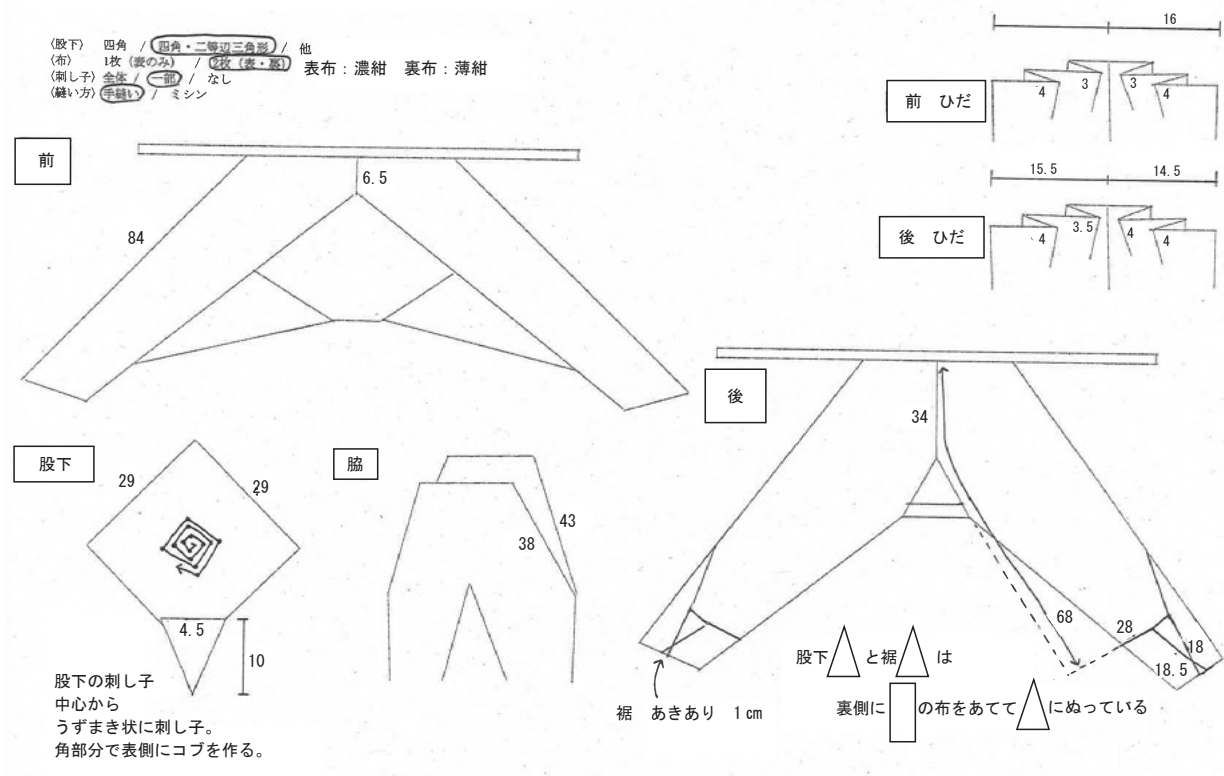


図4 日浅42 たもっぺ (男鹿市五里合)

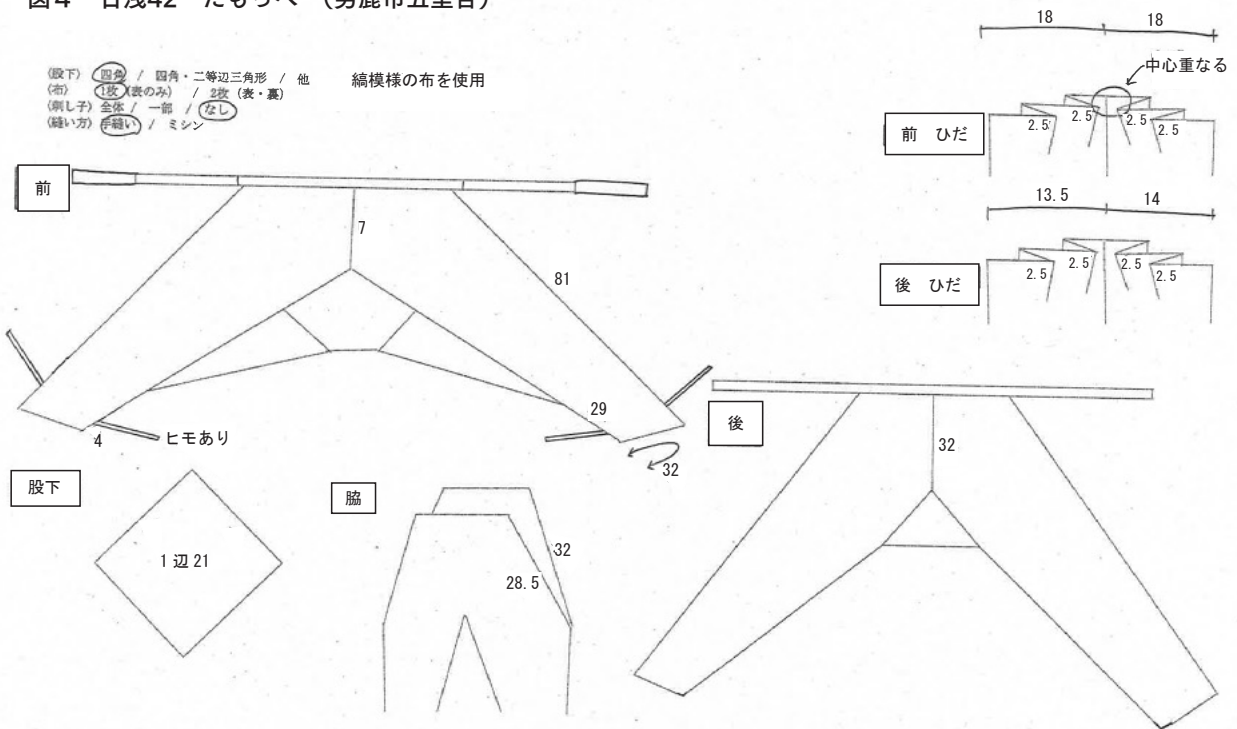


図5 日浅185 もっくらもんぺ (男鹿市払戸)

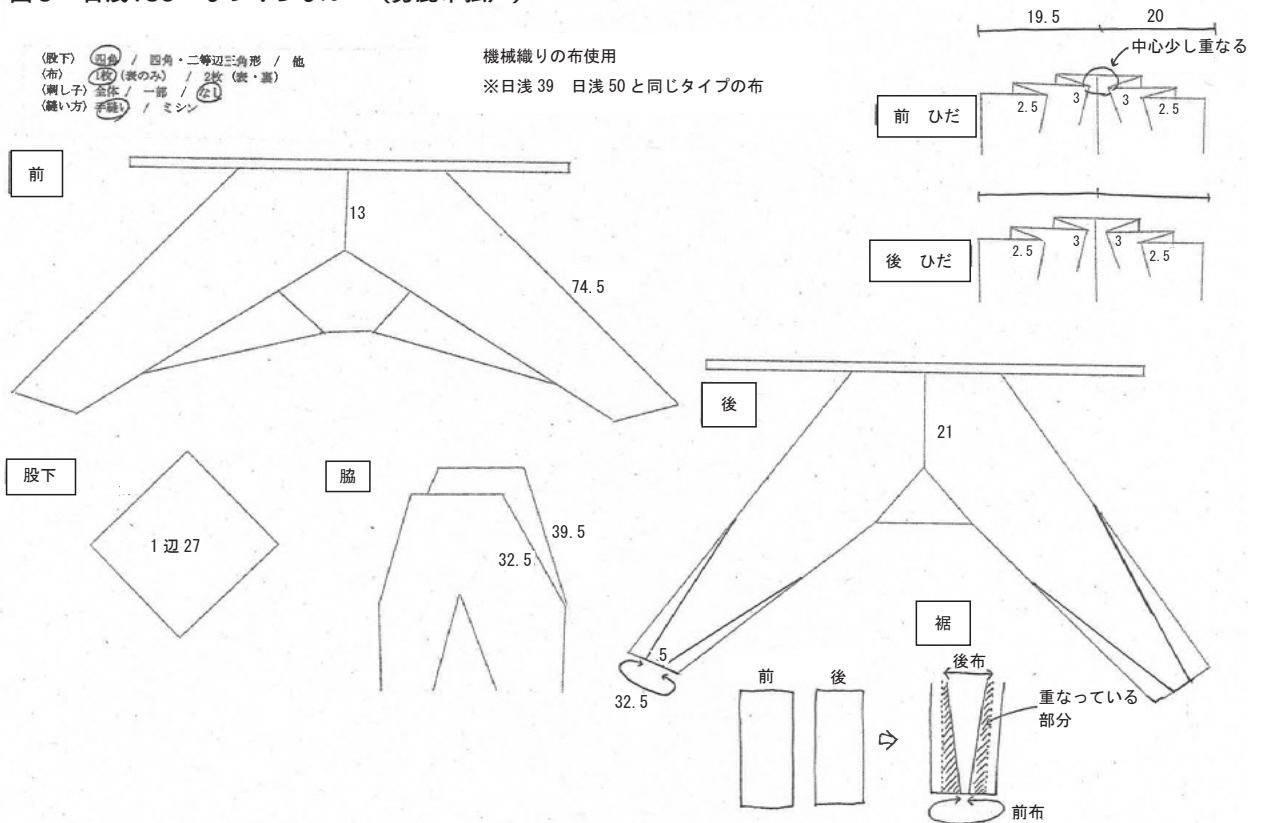


図6 日浅196 たもっぺ (潟上市飯田川飯塚)

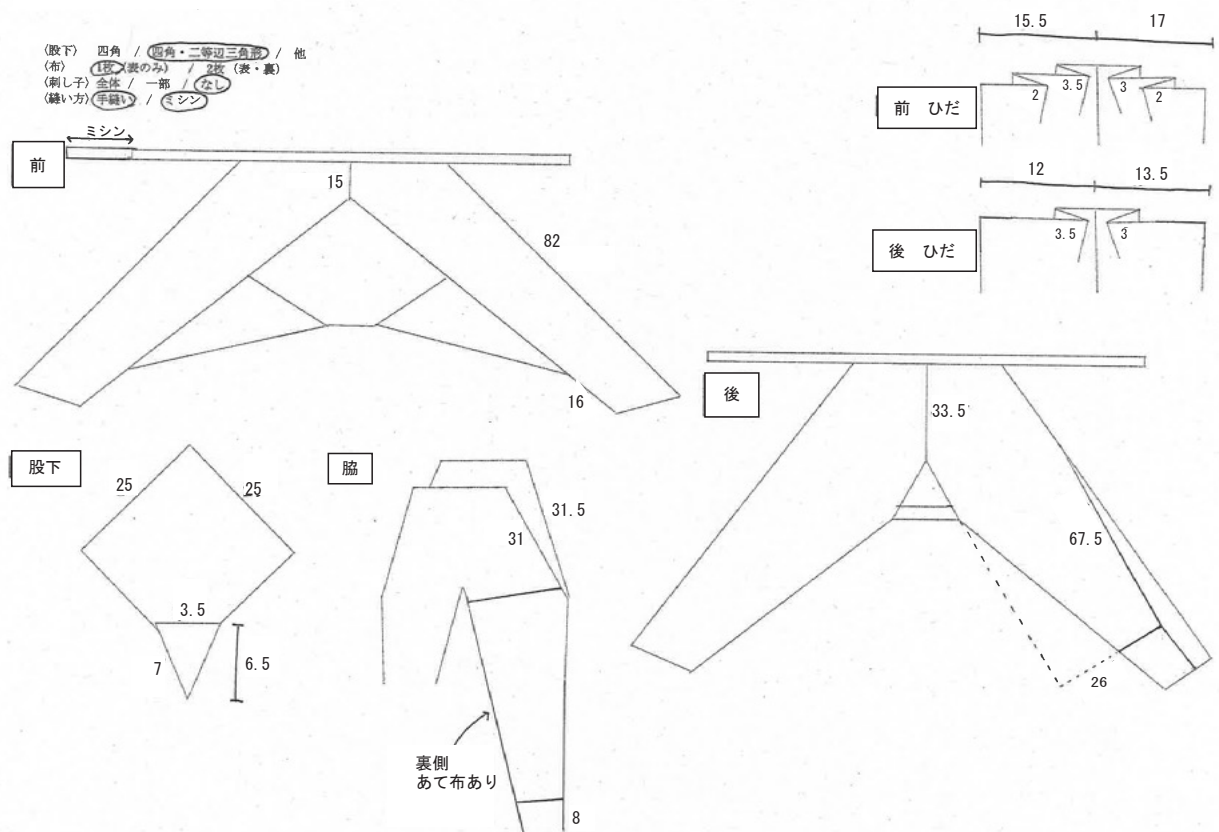


図7 日浅60 すねこでたち (秋田市河辺新川)

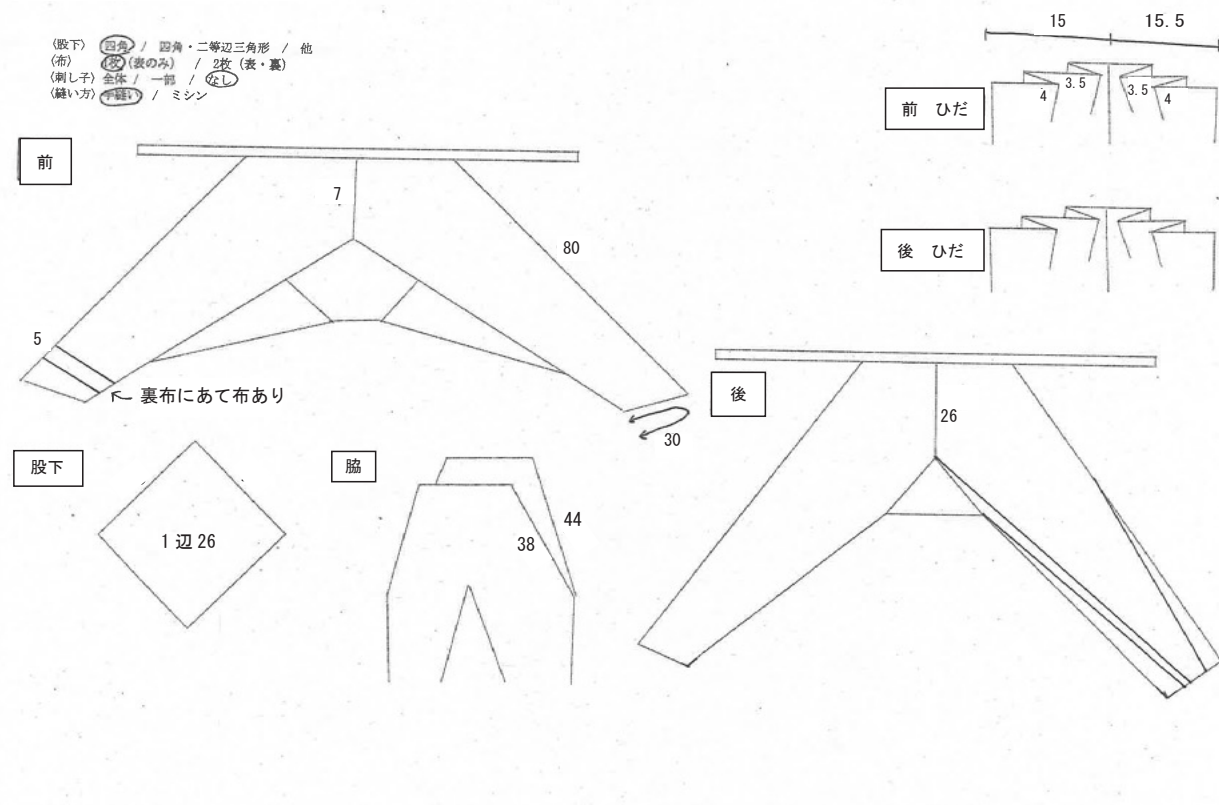


図8 日浅61 すねこでたち (秋田市河辺新川)

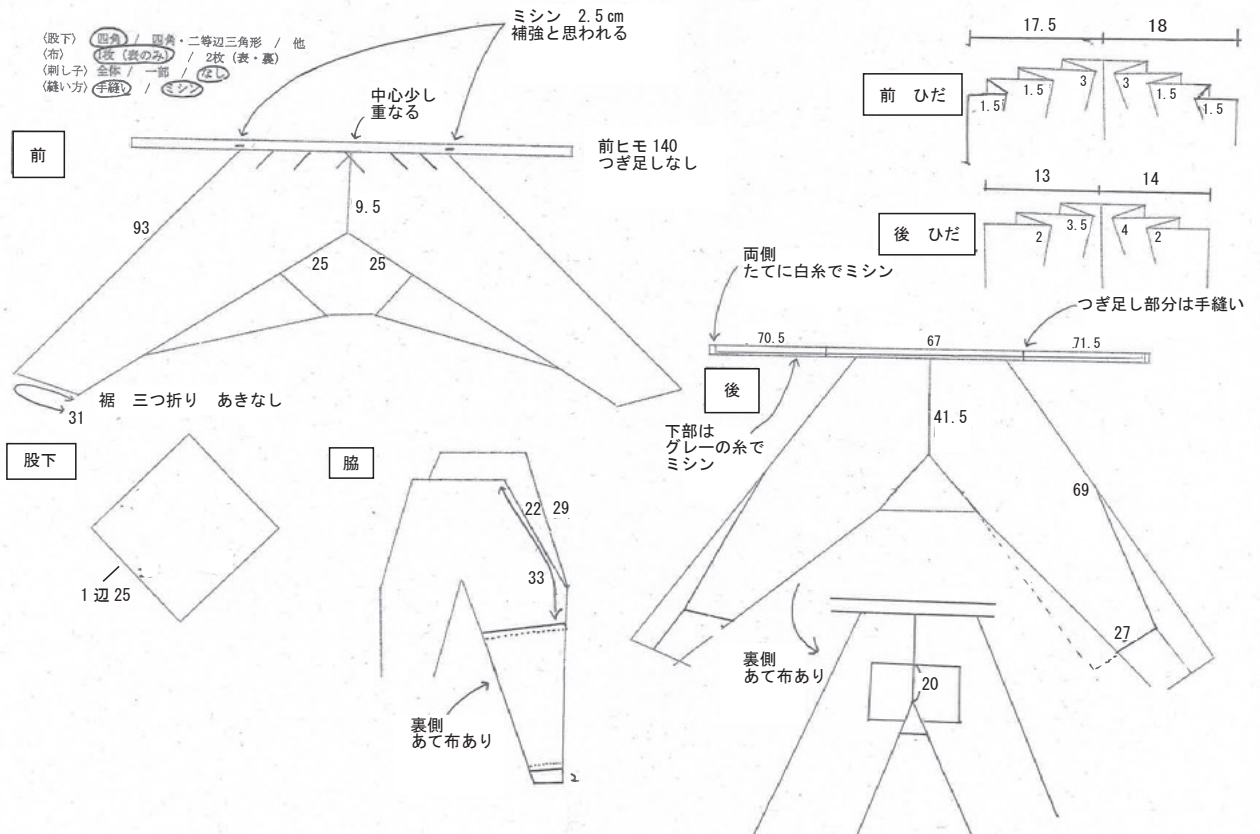
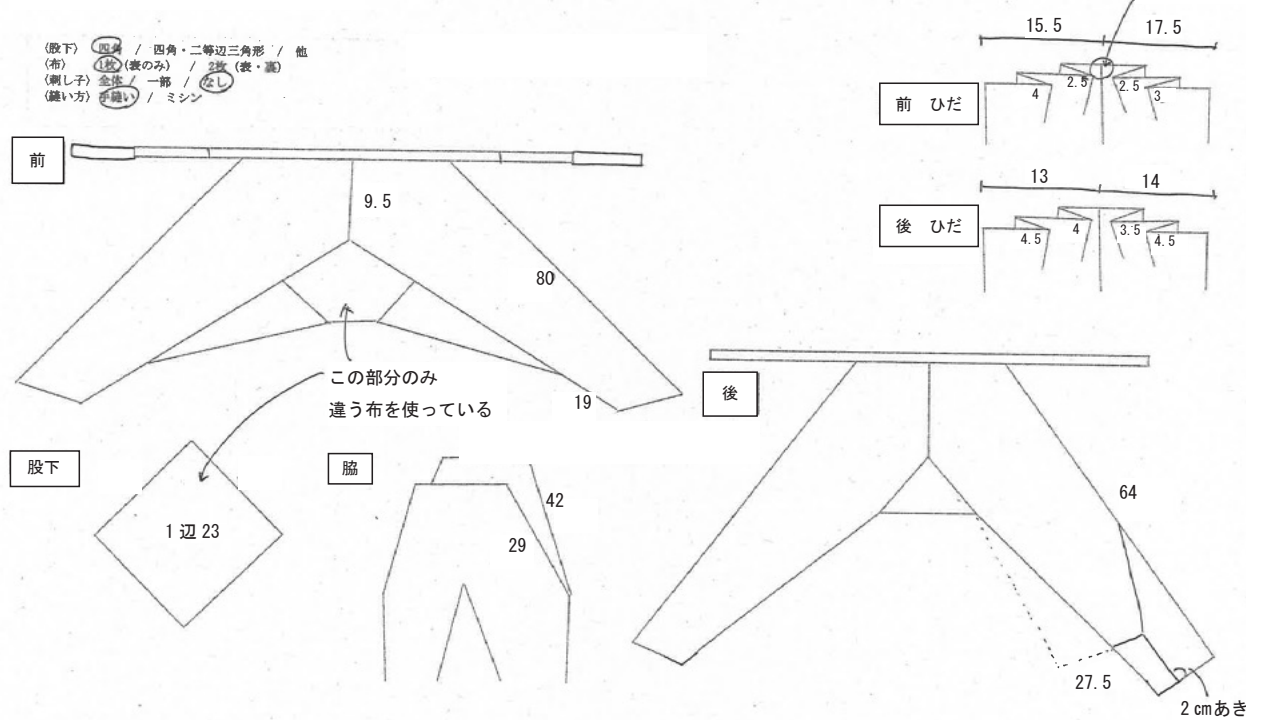


図9 日浅184 すねこでたち (秋田市河辺三内)



は股下のマチ部分に、中心からうずまき状に四角く刺し子がしてある。角の部分の表布面にコブを作っており、はき心地を考えたものと思われる。また、尻の部分や腿、膝下など部分的に裏布を当てているものがあり（図2・6・7・8）、皮膚に触れる部分を補強している。

④脇の笹ひだと呼ばれる部が大きく空いている。これは寒冷地特有のつくりで、上着を重ねて着ることができるためである。笹ひだの上部は折り返しが広く、腰の部分が台形になっている。たちつけ系の下半衣は外出用にも着用することがあり、特に外出用には腰板をつけることがあったというから〔日浅 1984 88頁〕、袴の構造を踏襲しているといえる。

⑤股下のマチは、正方形のもの（図4・5・7・8・9）正方形に二等辺三角形の布を足したものとがある（図2・3・6）。三角形を足すことにより、より股下に余裕が出来る上、布を縫い合わせた際に曲線に仕立てやすいという利点が考えられる。

⑥足首部分は空気がなく縫われているものがほとんどであったが、1～2cmほど空きをつけているものがあつた（図3・9）。空きがある方が足が通しやすくなると思われる。

⑦紐の部分は別布を使用していることが多い。今回再現したタモンペも含め、何故か後紐の両端部分のみ、他部分が手縫いであるにも関わらず、ミシンで縫われているものがあつた（図2・8）。後側の紐が前部分で結ばれるために、ミシンで補強したのであろうか。詳細は不明である。

⑧図4のみ、すねの部分に紐がついている。より足を固定させて、労働の動作を楽にするものと考えられる〔日浅 1988 325頁〕。

#### 4. タモンペの再現

秋田市周辺、男鹿南秋地域のたちつけ系の下半衣の比較を行った結果、基本的な布の裁ち方は変わらないが、股下のマチの部分や、裏布をあてる部分などで作り手の違いが見られることが分かった。特に図2のスネコモンペは今回再現したタモンペと同じ地域で作られたものであり、構造はほぼ同様であるものの名称が異なる。今後同地域で

の名称の違いについても検討したい。また、後紐の一部が継ぎ足されており、端のみミシンで縫われていることなども、今後検討したい。

こうしたことを踏まえて、実際にタモンペの再現を試みた。

タモンペは濃紺木綿布を用いており、紐部分のみ白の木綿布が使われている。たちつけ系の下半衣は、ももひき系と同様、比較的少ない布で作ることが出来るといわれる。普通は1反で2足取り、残りの布は前掛けにするが、小柄な女性の場合は1反で3足作ることが出来たという〔日浅 1984 88頁〕。今回は布の種類や縫い方なども忠実に再現するよう心がけた。なお、今回使用した藍染めの布は、元職員である宮本康男氏が染めたものである。

##### 1) 布の裁ち方

タモンペは前と後部分に長方形の布が組み合わされているため、前側、後側とも、縫い目に沿って寸法を測り、寸法に差が出た場合は、長方形になるように中心値をとった。縫い代は1cmとした。また、紐をつけた部分はひだが入っているため、ひだの深さと出来上がりの寸法とを勘案し、布の長さを計算した。

布の裁ち方は図10のとおりである。藍染めの布からは、前布と後布、股下部分、後紐の一部をとり、前紐と後紐の端部分は他の布を使用した。

##### 2) 縫い方

裁断した布は前側（写真03）と後側（写真04）、股下のマチに分けられる（写真05）。今回はまず、マチ部分から縫いはじめた。

①一点鎖線のステッチを入れた二等辺三角形と正方形とのマチを並み縫いでつなげ合わせる（写真06）。

②後左足と股下部分を縫い合わせる（写真07）。

③後右足と股下を縫う（写真08）。

④前部分の上部を縫う（写真09）。

⑤前側と股下部分を縫う（写真10 図11）。

⑥両脇部分から膝下を縫う。この時、完成した時に裾の端が1cmあくように縫う（写真11 図12）。

⑦裾部分を三つ折りにして縫う。



⑧縫い代の始末 股下の縫い代を外側に倒して縫う (写真 12 13)。

⑨縫い代の始末 (中心)  
前側の縫い代を左足側に倒して縫う。後ろ側の縫い代も同様に左足側に倒す。

⑩笹ひだを折って始末する (写真 14)。

⑪膝下の縫い代の始末。

⑫上部のひだを縫う (写真 15 16)。

⑬前側の紐をひだをとった布につける。紐の縫い目はコの字綴じにする (写真 17 18)

⑭後側の紐を縫い付ける (写真 19)。

⑮後側の紐の両端に別布で紐をつける。下部のみミシン縫い (写真 20)。

⑯笹ひだの下部部分を補強する (写真 21)。

⑰完成 (写真 22 23)

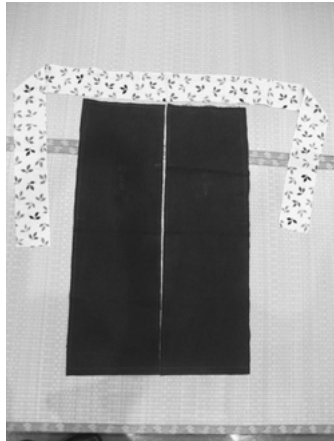


写真03 前布

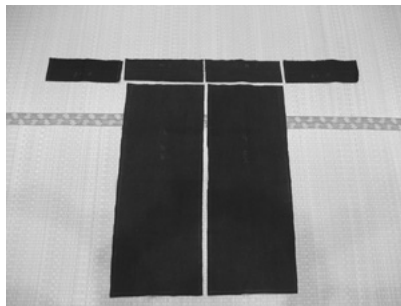


写真04 後ろ布

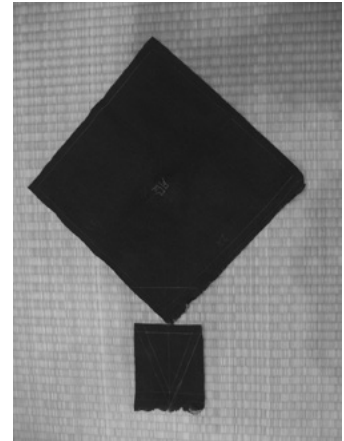


写真05 股下マチ



写真06 マチ (表)

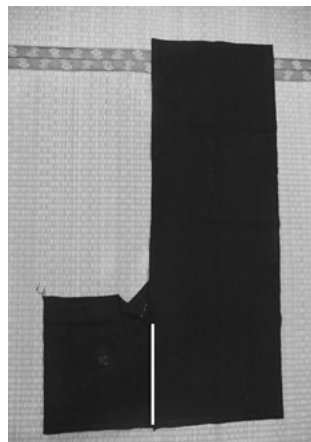


写真07 白線部分を縫う



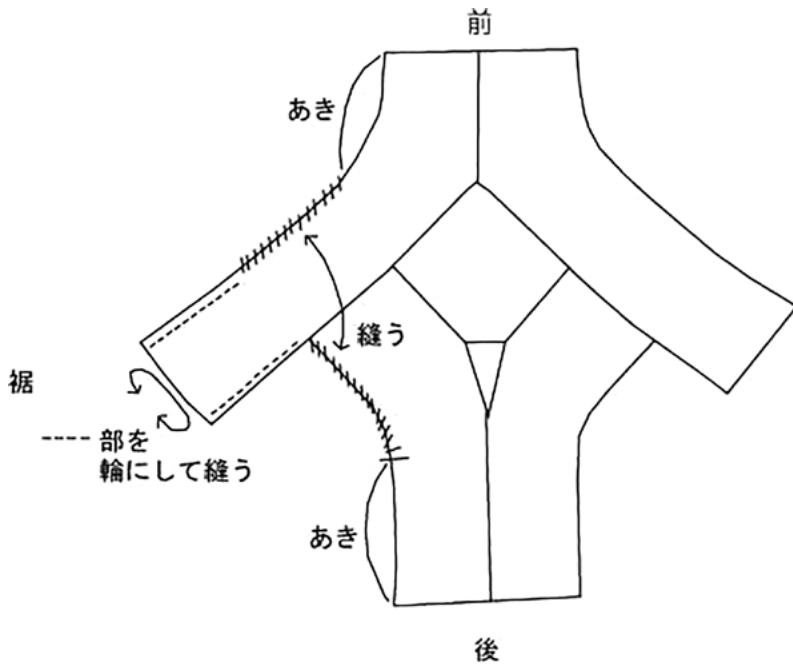
写真08 後右足と股下



写真09 前部分



写真10 股下と足部分



裾部分を縫う時は前布を筒状にし、後ろ布は使用しない。  
前布を縫った縫い目は後部分になる。

図11 布をつなぎあわせたところ



写真11 両端を縫ったところ

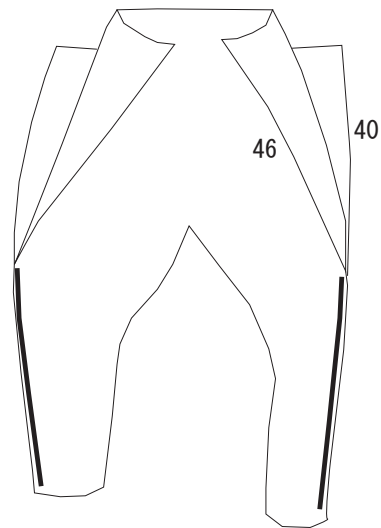


図12 黒太線部分を縫う

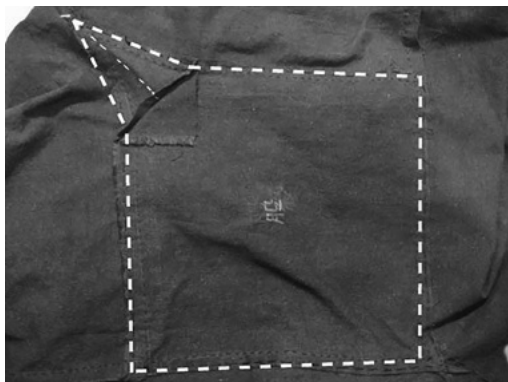


写真12 表白線部分を縫う

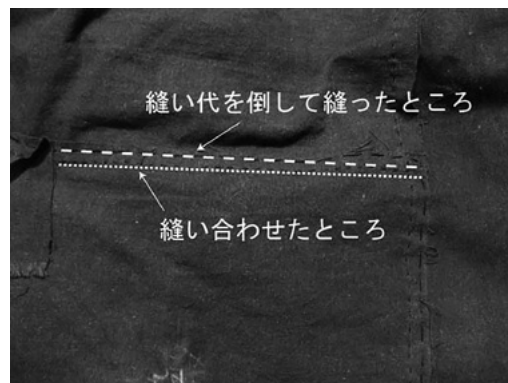


写真13 裏から見たところ



写真14 笹ひだ裏



写真15 ひだ表部分



写真16 ひだ裏部分



写真17 前側中央の裏を縫う

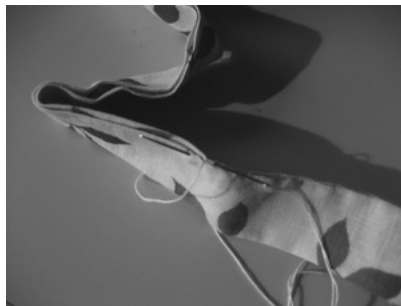
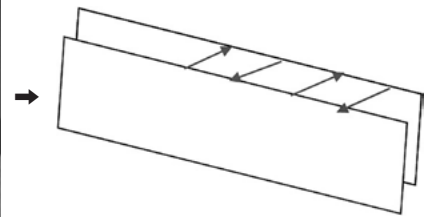


写真18 コの字縫



直角に針を入れる



写真19 後側表にかえした所



写真20 後紐の下部をミシンで縫う



写真21 笹ひだ補強



写真22 完成 (前)



写真22 完成 (後)



写真23 着用したところ

## 5. まとめ

タモンペを再現した結果、構造は比較的単純ではあるが、下半身の曲線を出すように縫うことが難しいことが分かった。また、紐や筐ひだ部分の補強など、細かなところで作り手の気遣いが見られた。

今回、秋田市周辺のタモンペの比較から再現を行ったが、同地域ではももひき系やもんぺ系の半衣も多く残されている。今後はそうした衣類についても比較検討を加えたい。また、今回再現したタモンペは昔の道具の教材として使用する予定である。

## 注

日浅治枝子 1984「農民被服“のらぎ”の性能に関する研究Ⅳ－秋田県農民の下半衣についての一考察－」『秋田県立農業短期大学研究報告 第10号』

日浅治枝子 1988「下衣」中村たかを編『日本の労働着－アチック・ミュージアムコレクション－』源流社

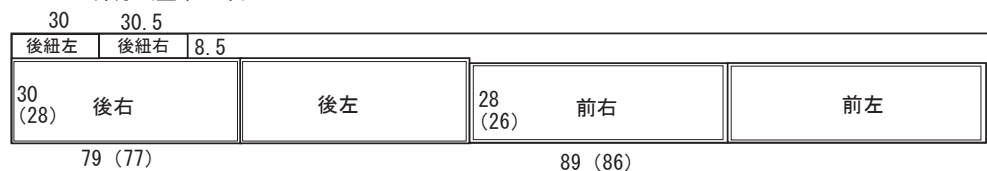
日浅治枝子 1986「秋田県の仕事着－野良着を中心として－」『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第11集 仕事着 東日本編』平凡社

木崎和廣 嶋田忠一 2000「日浅治枝子寄附資料Ⅰ」『秋田県立博物館研究報告 第25号』

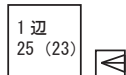
図10

### ■布の裁ち方

モンペ主部分（藍染め布）



股下部分（藍染め布）

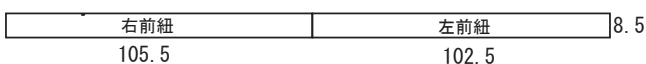


底辺 6 cm 高さ 8 cm の二等辺三角形を作る

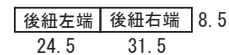
裾の補強部分（赤色の布）



紐部分（白地に葉の模様）



紐端部分（茶色機械織り）



### ■布の折り方

